

水の 話

FujiClean NEWS

2025
Summer

No.208

〔特集〕

水辺の活気を取り戻す 「水の回廊」

水辺再生から、新しい時代の水都大阪の構築へ



水辺の活気を取り戻す「水の回廊」

水辺再生から、新しい時代の水都大阪の構築へ

古来より舟運に支えられ発展し、明治時代には「水の都」と呼ばれたまち、大阪。
高度経済成長期による発展とともに人と川とが分断してしまう歴史を経て、
世界的にも稀有な「水の回廊」を中心とした川辺の魅力を創出し、
新たな水の都としてのブランド構築を実現してきました。
大阪・関西万博の開催により世界からも注目を集める水都・大阪の歴史と魅力を探ります。

DATA

2025年3月現在

大阪府（人口 8,760,758人 世帯数 4,316,105世帯 面積 1,905平方キロメートル）
西日本最大の都市である大阪府には43の市町村があり、大阪市内に大阪府庁や経済の中心が集まっています。大阪府には約876万人が住み、日本全国の人口の7%がここ大阪府に集約している一方、面積は全国の都道府県の中で下から2番目。狭い面積のなかに多くの人が生活する大都市です。古来より経済、文化の中心地として繁栄した歴史を受け継ぎ、古墳などの歴史的建造物や景観が色濃く残り、「新しさ」と「懐かしさ」が混在しています。

【資料提供・撮影協力】
○ 水都大阪コンソーシアム

【参考資料】
○ 水都大阪の教科書（橋爪紳也、嘉名光市 監修／株式会社ワイキューブ・ラボ 企画・編集・執筆／水都大阪コンソーシアム 発行）
○ 「水都」大阪物語 再生への歴史文化的考察（橋爪紳也 著／株式会社藤原書店 発行）
○ 光のまちをつくる ―水都大阪の実践（橋爪紳也 光のまちづくり推進委員会 編著／株式会社創元社 発行）
○ 大阪の橋ものがたり（伊藤純 橋爪紳也 船越幹央 八木滋 著／株式会社創元社 発行）
○ 水都大阪 <https://www.suito-osaka.jp/>
○ まちごと万博 <https://machigotoexpo.jp/feature/suito-osaka/>

水辺から商業都市へと発展を遂げた大阪のまち。

「水の都」大阪のなりたち

古くから「天下の台所」と称される商業のまちであり、独自の「食」や「文化」が息づく西日本の中心都市、大阪。活気と賑わいがあふれるまちには多くの高層ビルが立ち並ぶ一方で、多くの川が大きなビルの間を悠々と流れます。実は大阪は市域の約1割が水面に覆われているほど川が多く、その数は33河川、総延長146.0キロメートルにおよびます。

なぜ大阪はこれほど川が多いのでしょうか？今から約6,000～7,000年前の縄文時代、海水面は今よりも1～2メートル高く、上町台地が半島のように陸上に顔を出すのみでした。東には「河内湾」と呼ばれる内海、西には「大阪湾」が広がっていましたが、やがて河内湾は淡水化して湖へと姿を変えます。河内湾は5世紀以降の治水事業を経て陸地となっていき、これが現在の大阪につながる河内平野。つまり、元々大阪は、海の下にあったのです。大阪湾には古くから多くの「津」と呼ばれる船着場や港が存在し、上町台地の北部にあった難波津は、古代の重要な港の一つで国際交易の拠点として賑わっていました。645(大化元)年、孝徳天皇が大化の改新の幕開けとともに飛鳥から「難波宮」に都を移したことが、現在の地に大阪のまちが生まれた起源です。

川の開削で発展した豊臣秀吉のまちづくり

その後、都が奈良・京都へと移ると、大阪は都市としての発展が停滞していきました。しかし1583(天正11)年、本能寺の変に倒れた織田信長の遺志を継ぎ、本格的に大阪城の築城に着手したのが豊臣秀吉です。大阪を首都にする構想を抱える秀吉が、築城と並行して城の西方に外濠として掘ったのが、現在の北浜と天満橋の間を南北に流れる東横堀川。秀吉は、まちにさまざまな水路を敷きながら、城の守りの強化と城下町の拡大、さらに治水対策までを一挙に行い、都市開発を実現したのです。またこの頃は、土地の税金が免除されたことから町人たちが競って堀川(人工河川)の開削の許可を取り付け、私費で川を掘り、橋を架けていました。次々と川と橋がつくられ、「なにわ八百八橋」と呼ばれるほどでした。縦横無尽に広がる堀川は、船場を中心に蔵屋敷や商家にも船をつけて荷を下ろすようになり、大阪の物流の動脈として重要な役割を担っていきました。また北海道や江戸と畿内を結ぶ北前船や樽回船などの外航路と、淀川や大和川などを経て京都や奈良へと荷物を運ぶ内航路との繋がりが良かったことで、全国一の交易拠点として成長を遂げ、水の都としての華やかな賑わいが生まれていきました。

経済発展に伴う川と人との分断化

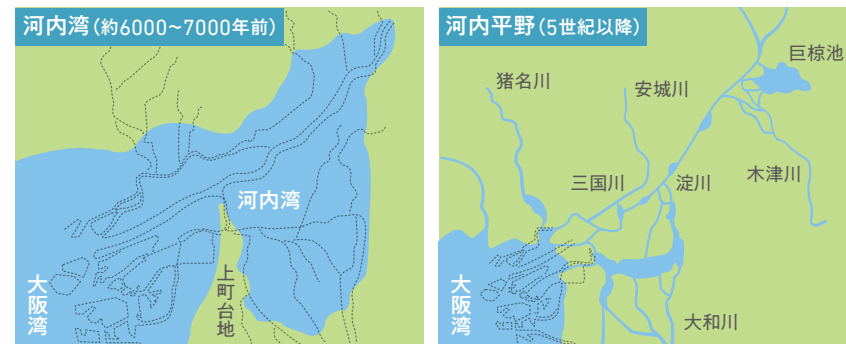
江戸時代が終焉を迎えると、1868(慶応4)年に大阪府が、1889(明治22)年に大阪市が誕生します。「港と船が大阪の根本」という考えから、大阪市章は船の水路標「漣つくし」に決まりました。この頃から、徐々に鉄道網が広がりはじめ、1874(明治7)年に大阪～神戸間、1876(明治9)年に京都～大阪間の鉄道が開通し、しばらく水陸交通の並存時代が続き、1910(明治43)年に天満橋～京都五条間に京阪電気鉄道が開通すると水上交通は役割を終えます。

さらに時代は昭和となり、第二次世界大戦によって大きな被害を受けた大阪は、戦災の瓦礫処分や公共用地への転用にともない川の埋め立てが本格化していきます。水運が減りゴミの投棄などで環境悪化が進んだことや治水対策などを理由に、大小60の川が埋め立てられました。また急速な

経済発展に伴う地下水汲み上げによって大阪の地盤沈下が加速。沿岸部の高潮対策として築かれた防潮堤が水辺と陸を分断すると、次第に人々は川との接点がなくなり、水辺への関心を失っていきました。やがて、高度経済成長とともに生活排水や工場排水が河川に流れ込んだことによって水質も悪化。かつて人々が水辺に親しんだ姿は影をひそめ、大阪は水都としての姿を消失させてしまったのです。

1. 新鴨野橋から見える大阪城天守閣。8階の展望台からは大阪を一望できます
2. 大阪城の外濠として開削された東横堀川は、大阪市内に現存する最古の堀川
3. 江戸時代の大坂城周辺を表した「新板大阪之図」(大阪市立図書館デジタルアーカイブ)
4. 江戸時代に米の取引が行われていた「堂島米市場」の跡地に建立された記念碑「一粒の光」。世界的な建築家・安藤忠雄氏のデザイン
5. 江戸時代に京と大阪を結ぶ三十石舟の発着場として栄えた八軒家浜。現在は水都大阪の舟運の拠点であり、憩いのスポットとなっています

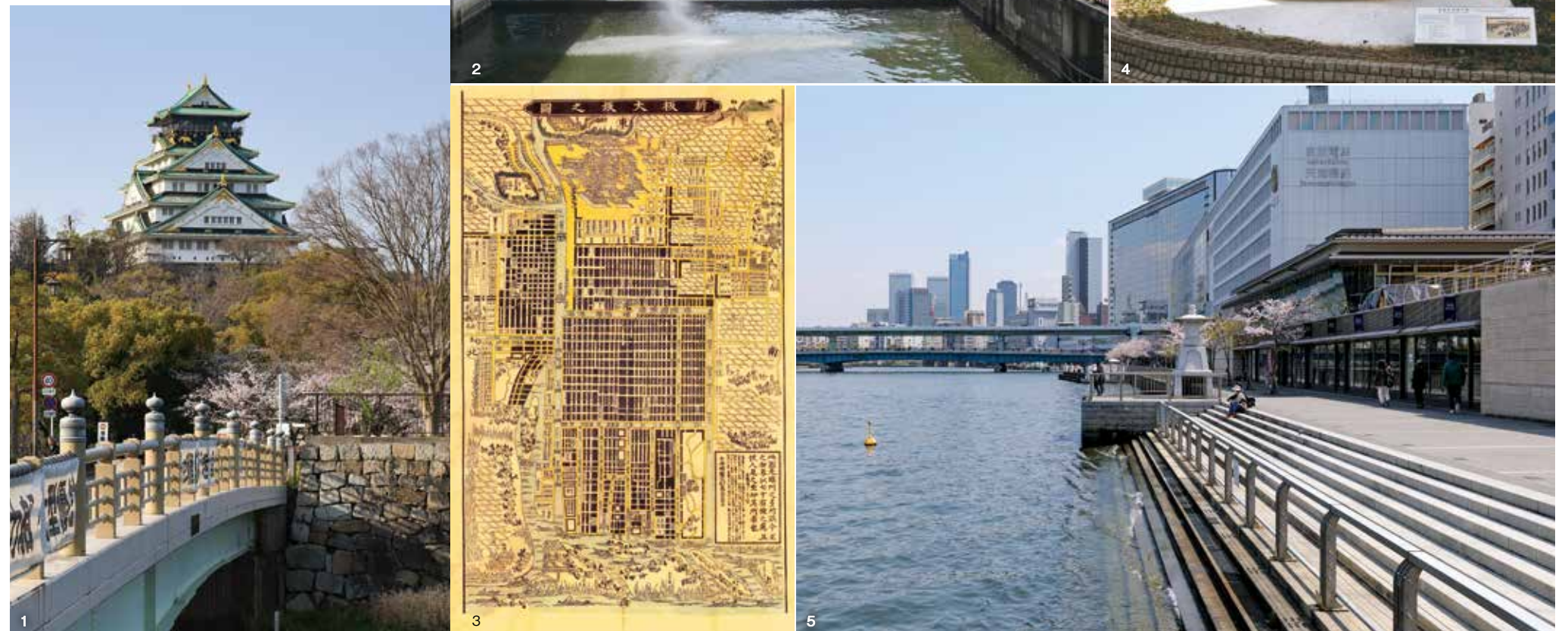
大阪の変遷図



COLUMN

最先端の排水処理システム「太閤下水」

豊臣秀吉は、大阪城西側に城下町を建設するにあたり上町地区の排水は東横堀川に、下町(船場)地区の排水は西横堀川に流れ込むように下水溝を整備しました。この東西の下水溝を「太閤下水」と呼んでいます。太閤下水は、生活排水とし尿などの汚水を分け、生活排水のみを東横堀川に流す、当時最先端の仕組みでした。道路と同時に下水溝を完備した都市計画は、当時画期的なアイデアで、現在でも20kmほど現役で活躍しています。また江戸で「水道」といえば上水道のことでしたが、大阪では下水道のことを指しました。大阪では堀川を流れるきれいな淀川の水を直接汲み取って生活用水にしていたため、上水設備がなかったからです。



新たな魅力を創出する水辺再生への挑戦。

「水の回廊」による大阪ブランドの再構築

都市の発展のために川と市民生活とが乖離してしまった大阪でしたが、都市機能の見直しのために道や橋に新たな歩行者・自転車空間の確保が目指されるようになります。1990(平成2)年には広場をコンセプトとした中之島ガーデンブリッジが建設され、橋は都市の中でも憩いをもたらす空間として整備されていきました。また1983(昭和58)年に大阪城築城400年を記念して大阪水上バスの「アクアライナー」の就航が実現すると、戦後途絶えていた水上交通が復活。都市における貴重な自然環境や快適な生活環境として、川に対する市民ニーズが少しずつ高まっていきました。

“水都”としての大阪を再生させる契機となったのは、2001(平成13)年に水都大阪再生の取り組みが、内閣官房都市再生本部によって都市再生プロジェクトに指定されたことでした。停滞する大阪を元気にするために「水都」をテーマとした新しいムーブメントを興し、既存イメージを刷新する新しい「大阪ブランド」の構想が推し進められました。中之島が都市再生緊急整備地域に指定されるとともに、中之島・東横堀川・道頓堀川・木津川からなる口の字の川を「水の回廊」として再生することで、大阪全体の活性化を目指すことになったのです。さらに2002(平成14)年には、大阪府、大阪市、経済界等が構成する「花と緑・光と水懇話会」と「水の都大阪再生協議会」の2つの組織が設立され、親水空間の整備などのハード面、賑わいを生み出すソフト面、両方からプロジェクトが展開されていきました。

水都大阪の復活を告げる「水都大阪2009」

「水の都大阪再生協議会」により、道頓堀川沿いの遊歩道や中之島公園の整備、八軒家浜の整備などハードの整備が急ピッチで進められました。市民から遠ざかっていた水辺が、誰でも利用できるパブリックスペースや、時代にマッチした船着場として次々と生まれ変わりました。同時に、道頓堀川の湊町リバープレイス、堂島川のほたるまちなど、船着場とともに商業施設や複合施設を併せ持つ水辺の拠点が整備され、新しい名所を船でめぐる楽しみが生まれています。また「花と緑・光と水懇話会」は、市民活動と連携しながら水辺の四季を楽しむためのイベントを開催。大阪の暮らしの中に水辺の風物詩を復活させました。

そして2009(平成21)年、水都大阪の復活を広く内外に知ってもらう一大イベントとして「水都大阪2009」が開催されました。親水性の高い中之島公園や水の回廊を中心とした市内各所において、川と人をつなぎ、水辺の楽しさを再発見できるさまざまなプログラムを展開。体験型アートプログラムやワークショップ、アート舟の巡航や船着場での朝市やリバーマーケット、舟と水辺を組み込んだまち歩きなど、企画段階から実施段階に至るまで、市民や地域、NPO、企業、アーティストが知恵と力を結集し、行政と協働して実施しました。会期中は190万人の人々が会場を訪れ、水都大阪の魅力と川や水辺を活用したつながりが都市再生の原動力となることを示しました。水辺の再生を通じて、水の都としてのブランドとシビックプライドを再び呼び起こしたのです。



規制緩和によって生まれた水辺スポット

全国的にも河川敷を地域の活性化のために活用したいというニーズが高まり、2011(平成23)年に河川空間の利用に係る規制(河川敷地占用許可準則)が緩和されました。地域の合意を得たうえで民間事業者が水辺でカフェや川床、オープンテラスなどの営利活用ができるようになり、大阪では、社会実験として全国で初めて川床「北浜テラス」を実現すると、予想以上の反響があり常設されることになりました。その後も、八軒家浜の「川の駅はちけんや」、中之島公園の「GARBweeks」、道頓堀川の「チャンネルテラス堀江」、東横堀川の「β本町橋」など、水辺に魅力的なスポットが次々と誕生し、大阪の川辺に賑わいを生み出しています。さらに「水都大阪2009」で培った市民・経済界・行政のネットワークを生かし、2011(平成23)年に「水都大阪水と光のまちづくり構想」が策定されると、世界に誇る水都大阪ブランド確立への取り組みが推し進められました。現在は、2017(平成29)年に設置された公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」が中心となって、府・市・経済界に加え、大阪観光局、舟運団体、学識者等も参画し、水辺・水上観光メニューの拡大や舟運の活性化を推進しています。

水質が改善し、生き物が集まる水辺へ

再生されたのは水辺の景観だけではなく、高度経済成長期に悪化してしまった川の水質も改善していきました。市の中心部を流れる東横堀川と道頓堀川に建設された水門は、船が通過する際に水位を調整する閘門であると同時に、潮の干潮に合わせて開閉することで汚れた水の流入を防ぎ、大川のきれいな水を導き入れることで川を浄化しています。あわせて下水処理も改善され、2015(平成27)年には、直

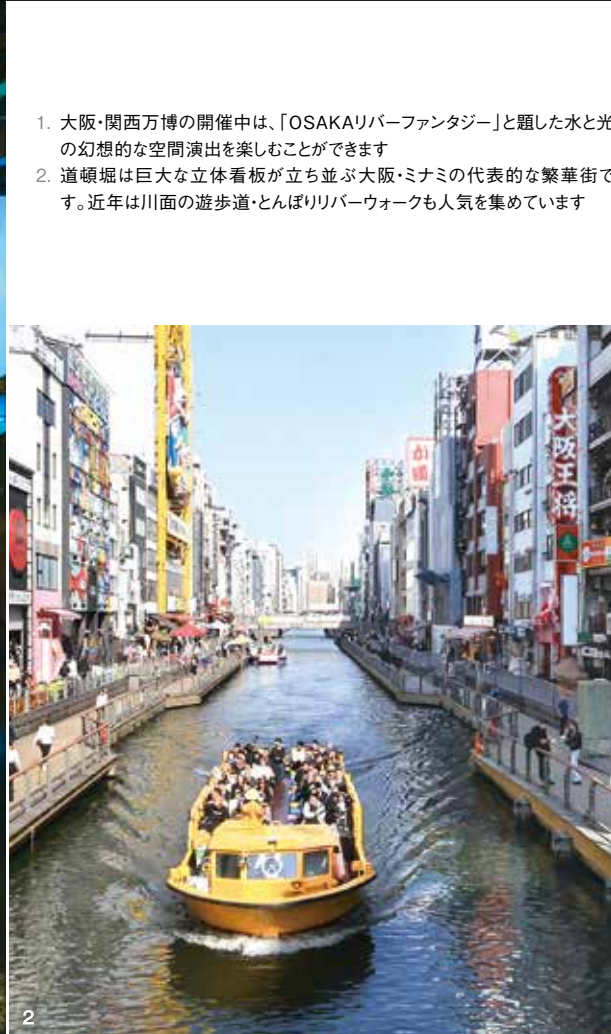
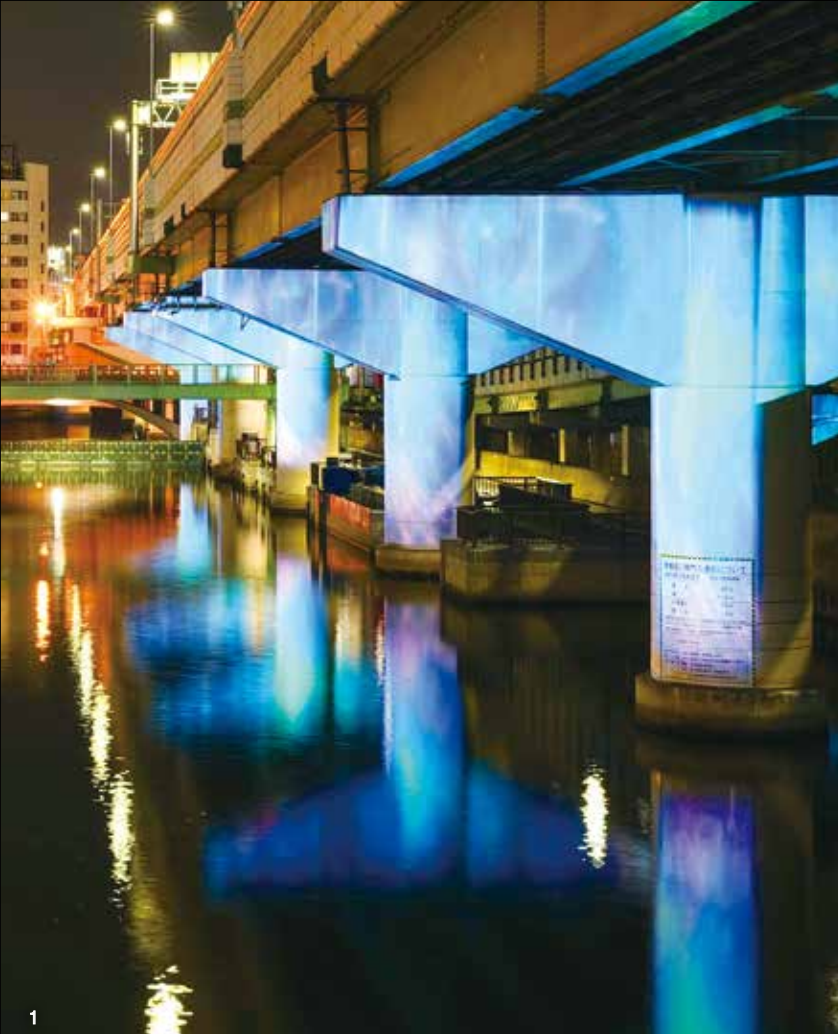
径6メートルの巨大な貯留管「平成の太閤下水」が西天満から天王寺までの松屋町筋の地下に完成。これまでは、大雨が降ると汚水が溢れ異臭の原因となっていたいましたが、完成後は、雨の翌日も臭くなくなることがほとんどなくなりました。2021(令和3)年度の調査では、大阪市内河川のBOD*の年平均は1.6mg/Lで、泳げる基準を満たす数値にまで改善しています。また川の水質が改善されると、生き物も水辺に戻ってきました。近年は、川に魚が増えたことでマガモやカルガモ、アオサギなどの水鳥も見られるようになり、きれいな水質でなければ生息できないコウライモロコも大川・土佐堀川・道頓堀川で見つかっています。

※Biochemical Oxygen Demand:水質の汚れを表す指標

- 桜の時期は、天満橋から桜ノ宮まで続く大川沿いの桜並木を船から眺めるさくらクルーズが人気
- 川沿いの遊歩道と一体となって親水空間を形成するチャンネルテラス堀江
- カヤックやカヌー、SUPなどの川のアクティビティを楽しむ人も
- 1918(大正7)年に岩本栄之助氏の寄附で建てられた中央公会堂。水の蒼と木々の緑に映えるネオルネッサンス様式の美しい外観も水辺の楽しみの一つ

市内を口の字に川が流れる「水の回廊」





1. 大阪・関西万博の開催中は、「OSAKAリバーファンタジー」と題した水と光の幻想的な空間演出を楽しむことができます
2. 道頓堀は巨大な立体看板が立ち並ぶ大阪・ミナミの代表的な繁華街です。近年は川面の遊歩道・とんぼりリバーウォークも人気を集めています



江戸時代から大阪の発展・繁栄を支えた 八百八橋の歴史とものがたり。

舟運が経済を支えてきた大阪には多くの橋があります。いつの頃からか江戸の「八百八町」に対して「八百八橋」といわれるようになり、大阪の風景の一つにもなっています。豊臣秀吉の時代に多くの橋が架けられましたが、ほとんどが木造のため、耐久性が低く、20年ほどで架け替えが必要だったようです。当時、橋には補修や架け替えを幕府が行う「公儀橋」と、有力な商人や近隣のまちが費用負担して架設や維持管理を行った「町橋」の2種類がありました。近世の大阪には200近い橋ありましたが、公儀橋はたった12橋。ほとんどが町橋だったことから、大阪町人の経済力がうかがえます。1634（寛永11）年に幕府は軍事上、特に重要と考えた橋を公儀橋として直轄管理するようになり、大阪では、大川にかかる天満橋・天神橋・難波橋などが選ばれました。中でも「高麗橋」は、大阪の玄関口となる重要な公儀橋として、橋詰には幕府からの情報掲示板の高札や、櫓屋敷などが設置されていたそうです。

現代の大阪にも橋がたくさん残っており、さまざまな所に歴史を感じることができます。例えば、豊臣秀吉が東横堀川を外堀として開削した時に架けられた「本町橋」は、現役の橋としては大阪市内最古の橋です。現在の橋は、市電道路として拡幅された1913（大正2）年に架け替えられたものですが、ルネサンス風の石造りの橋脚に支えられた重厚な構造が魅力です。また「ライオン橋」の愛称で知られる難波橋には、橋の北詰と南詰に狛犬のように口を開けた阿形と、閉じた吽形の一对のライオンの像が向かい合わせに置かれています。これは、かつて難波橋から16の橋が見えたことから、 $4 \times 4 = 16$ （ししじゅうろく）にかけた洒落になっているそうです。こうして見てみると、一つひとつの橋にはいろいろな物語が隠されています。大阪では、水上バスやクルーズ船などに乗れば、普段まちから見ている水辺や橋を船から眺めることもできます。河川や橋梁の新しい魅力を発見することができるかもしれません。

大阪・関西万博を機に、世界へ発信する水都の魅力。

55年ぶりに水都大阪を舞台に万博が開催

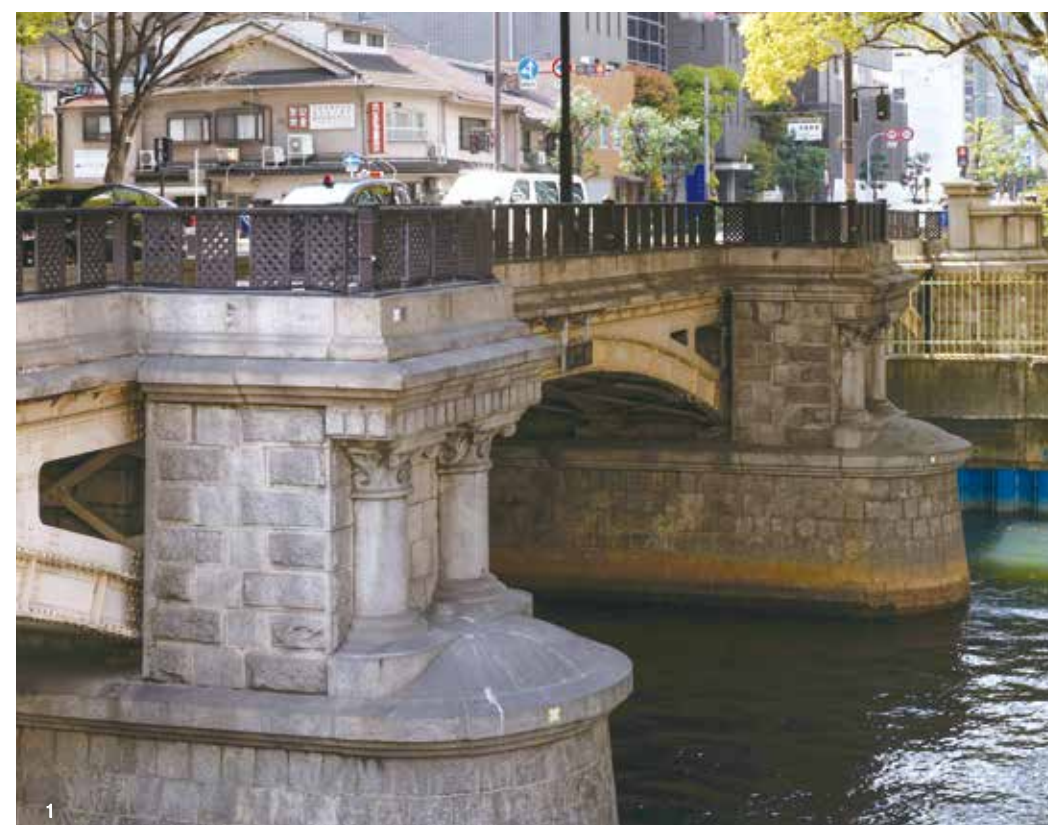
世界で“水都”と呼ばれる都市は、アムステルダム（オランダ）、ベネチア（イタリア）、サンアントニオ（アメリカ）、バンコク（タイ）、蘇州（中国）などが挙げられます。こうした都市と比べても、都心部が川に囲まれた都市というのは、大阪しかありません。大阪が「水の都」と形容され始めたのは明治40年ごろと言われていますが、その少し前の1902（明治35）年に大阪で開催された「第5回内国勸業博覧会」の案内書に、『大阪こそ真の水の府なれ、大阪は西洋人も日本のヴェニスと称するに位にて〜』と書かれる一節があります。「水の都」につながる「水の府」という表現が、明治時代に日本で実施された最大規模の国家イベントで使われていたのです。

そして2025（令和7）年4月、大阪を舞台に158もの国と地域、9つの機関が参加する国際博覧会「大阪・関西万博」が開幕されました。会場は海に囲まれた人工島・夢洲。会場の一角に海水を引き入れ、海を通じて世界がつながっていることを表現するなど、まさに長年にわたり築き上げてきた水都大阪の魅力を国内外に発信する好機となっています。

船で行ける万博で水都の魅力を未来に

大阪・関西万博の会場である夢洲には、棧橋が2カ所設けられており、船での行き来が可能となっています。船での往来ができる万博会場は、世界規模で見てもたいへん珍しいケースです。船を乗り継げば大阪城や一大繁華街の心斎橋・道頓堀を巡ることもでき、川を利用した市内観光が楽しめます。さらに大阪・関西万博の開催期間中は、水と光のシンボルである中之島・水の回廊と万博会場を結ぶ「水と光の東西軸」の3カ所でも、船上から楽しめるウォーターショーやプロジェクションマッピング等を開催。世界中の人に大阪全体を楽しんでもらえるよう、水と光を活かした魅力的なコンテンツが用意されています。

国際博覧会は、世界中から人やモノが集まり、人類の進歩や将来の展望を示すイベントです。多くの人の想いと努力によって水都としての再生を遂げた大阪のまちを、海の上から、川の上から眺めてもらうことで、私たちが目指すべき人と水辺がつながる理想の未来都市を、世界中の人たちが考え、思い描いてくれるのではないのでしょうか。



1. 江戸時代には大阪城と船橋を結ぶ重要な地位を占め、行政の中心地になっていた市内最古の本町橋
2. 難波橋には橋詰の4カ所に、阿と吽それぞれ2体の石造のライオン像が配置されています
3. 都市の玄関口として橋詰に計画的につくられた高麗橋の櫓屋敷

Web
サービス

製品情報から設置・施工・維持管理情報まで、 浄化槽に関する多様なWebコンテンツ をご用意しています

フジクリーンのWebサイトでは、浄化槽やプロワなどの製品情報をはじめ、浄化槽に関わる人の業務をサポートするための便利なコンテンツを掲載しています。ぜひご覧ください。

◆ 小型浄化槽新旧一覧

小型浄化槽の種類および発売・終了時期、マンホール蓋のサイズや枚数、汚泥の引き抜き量の一覧を掲載しています。



◆ 処理対象人員算定シミュレーター

浄化槽を設置する建物の建築用途と算定単位を入力するだけで、人員算定ができるコンテンツです。



◆ プロワの変遷

廃番プロワの型式や生産期間を掲載。生産を終了した製品の後継機種を、簡単にお探しいただくことができます。



◆ ダウンロードコンテンツ

浄化槽の申請、施工、維持管理まで、工程ごとに必要な書類が一括でダウンロードできます。



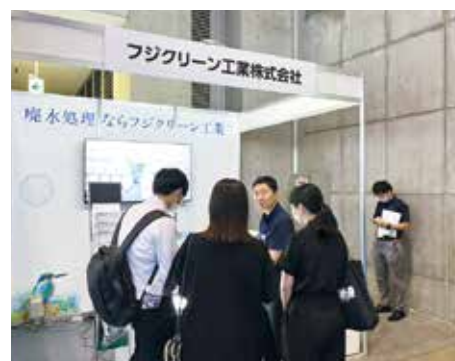
NEWS

FOOMA JAPAN 2025に フジクリーンが出展しました。

FOOMA
JAPAN FOOD PROCESSING
TECHNOLOGY EXPO

フジクリーンは、2025(令和7)年6月10日(火)～13日(金)に東京ビッグサイトにて開催された「FOOMA JAPAN 2025」に出展しました。FOOMA JAPANは、最新の食品製造技術やサービスが体験できる機会を提供する世界最大級の総合展示会です。

フジクリーンは、食品メーカーや食品製造機械メーカーに向け、厨房や食品製造現場が抱える廃水課題を解決する産業廃水処理システムを紹介。ブースでは、2,000件以上にのぼる豊富な実績とともに、物件規模や水質に合わせた最適なプラン提案や、設計から維持管理まで一貫体制で対応できることなどをPRしました。



お知らせ

広島営業所が事務所を移転しました

2025(令和7)年4月7日より、広島営業所が事務所を移転しました。新事務所は右記になります。

広島営業所 新事務所開所日 2025年4月7日

〒732-0052 広島県広島市東区光町1-7-11 広島CDビル5階C室
TEL.082-843-3315 FAX.082-843-3352

※TEL、FAX番号は旧事務所より変更ございません。

働きがい
向上紹介
18

マネジメントから”働きがい”を考える リーダーシップ研修を行っています



フジクリーンでは、「ヒトのマネジメント」の質を高めることが働きがいの向上につながると考え、経営・管理者層を対象としたリーダーシップ研修を実施しています。研修では、外部から講師を招き、部下のモチベーション低下を防ぐ方法や考え方、フォロワーシップなどをテーマにディスカッションを行います。

研修後には、「仕事と人、両方のマネジメントを上手に進めるのが管理職のやるべきことだと感じた」「今後は、“部下のモチベーションを下げるような言動をしていないか?”と常に自問しながら業務にあたっていきたい」といった声を聞くことができました。また後日、「振り返り会」を行うことで、受講者のリーダーシップ・フォロワーシップの実践を支援し、学びの定着を図っています。

研修テーマ

- 「人と企業の関係の変化」を考える
 - 「キャリア」と「プライベート」双方の観点から人生を見つめ直し、働き方の多様化による「多重役割葛藤」の問題について考える
 - 個人が主体的にキャリア開発を行う「キャリア自律」の考え方を理解する
 - 会社の価値観とのマッチング・共感の重要性を知る
- 「社内の仕組み・制度・施策」を考える
 - 企業理念・自社の強み・人事制度の3つが相互に関連しながら機能することの重要性を理解する
 - 「制度の効果を最大限にするには」という視点を学ぶ
- 「メンバーとのコミュニケーション」を考える
 - 面談や日常のコミュニケーションで部下「個人」と向き合うことの大切さを知る
 - 組織の成功には、リーダーだけでなくフォロワー(部下)の貢献が大きなウエイトを占めることを理解する



もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

〈愛知県海部郡〉
一般社団法人
ユースグリーンジャパン
Go Green Japan



理事
山田 欽也さん

使い捨てカイロを水質浄化剤に再利用し、 全国各地の環境改善に貢献!



◀ カイロの鉄粉を
再利用して
キューブ状にした
Go Green Cube



(左) 墓山古墳でのキューブの散布活動 (右) 全国各地から送られてくる大量の使用済みカイロ

一般社団法人Go Green Japanは、使用済みの使い捨てカイロを収集し、再利用して水質浄化剤や土壌改良剤を作る取り組みを行っています。カイロが水をきれいにできる理由は、主原料の鉄粉にあります。東京海洋大学の佐々木剛教授の研究によると、鉄粉に炭の粉を混ぜ合わせ固形状にして水の中に投じておくと、二価鉄イオンが発生することが実証されています。二価鉄イオンの働きにより、水中のヘドロを分解したり、赤潮の発生を抑制したりし、土の中でも土壌の酸化防止や微生物の活性化を促すのです。

この事業は元々、2018(平成30)年に大阪府の山下崇さんが始められていましたが、知人を通して山下さんと知り合った山田欽也理事が活動に感銘。協業する形で2022(令和4)年にGo Green Japanを設立しました。現在は、カイロの鉄粉に特殊な加工を施した「Go Green Cube(以下キューブ)」の製造販売をはじめ、日本各地の市民団体や地方自治体と協力し水の浄化活動を行うなど幅広く事業を展開

しています。例えば、大阪府の羽曳野市にある世界文化遺産の墓山古墳では、地元の学生たちと一緒に定期的にキューブを散布し水質改善を図る活動を実施。合計で2年以上の散布を行い、半年後にはヘドロや水質悪化の原因となるアオコなどの量を大幅に減少させることができました。現在も浄化した水がどれくらいの期間で戻るのかを経過観察しています。また同じ大阪府にある峯ヶ塚古墳でも実証データを収集して、水が汚れる原因を追究しています。今後はさらに、水質改善が必要な池や湖、ランドマークになる公共施設への活用も考えています。

団体に送られてくる使用済みカイロは、年間約70~80トン、ピーク時には最高1日2トンもの量になります。SNSやメディアを通じて活動を知った個人や団体から届けられるカイロの中には、心温まるメッセージなどが同封されていることも多く、活動の原動力にもなっています。今後も多くの人の期待に応え、キューブを使った環境改善を全国に広げていきます。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325

<https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	群馬営業所 (027)327-5611	広島営業所 (082)843-3315
東北支店 (022)212-3339	埼玉営業所 (048)660-5050	高松営業所 (087)869-8680
東京支店 (03)3288-4512	千葉営業所 (043)206-5171	松山営業所 (089)967-6123
名古屋支店 (052)249-5100	新潟営業所 (025)271-8668	高知営業所 (088)803-1520
大阪支店 (06)6396-6166	山梨営業所 (055)275-9300	佐賀営業所 (0952)31-9151
福岡支店 (092)441-0222	松本営業所 (0263)27-2080	熊本営業所 (096)388-3571
盛岡営業所 (019)604-2527	岐阜営業所 (058)271-1131	大分営業所 (097)558-5135
郡山営業所 (024)937-0800	静岡営業所 (054)286-4145	宮崎営業所 (0985)32-3064
茨城営業所 (029)851-0031	三重営業所 (059)213-5520	鹿児島営業所 (099)257-3501
宇都宮営業所 (028)625-4650	和歌山営業所 (073)422-3634	沖縄営業所 (098)862-9533



水の話公式
Instagram

Follow Me /



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C014687